



北アルプスを望み、自然豊かな「安曇野 豊科町」

である日野町で作品展を開くことになりました。

作品展は、長野県安曇野を中心とする北アルプスの山岳写真やオオイチョモンジ、タカネヒカゲなど高山蝶を細部まで忠実に水彩で描いた細密画など54点の作品を展示。来場者は「山岳写真は、光と影のコントラストが素晴らしい。モノクロ写真は山々の色を想像させてくれる」と自然の魅力に心を奪われていました。

作品一つひとつには、自然に対する熱い思いが込められ、多くの人々を魅了し、感動を与えました。

期間中作品展には、県内外から延1516人が訪れるなど大盛況に閉じました。



作品展を機に豊科町との交流が深まる

ひとりの山岳写真家を通じて 県を越えた交流が深まる

長野県から田淵行男 記念館友の会員が来町

作品展には、開催前から田淵行男記念館の館長や学芸員が準備に携わり、初日には長野県豊科町助役も駆けつけま

した。また、長野県から田淵行男記念館の活動を支援する「友の会」会員や田淵さんの長男の田淵穂高さんも日野町に訪れるなど、この作品展、田淵行男という一人の山岳写真家を通じて、県を越えた交流が深まりました。

子どもたちへ 自然を大切にしてほしい

田淵行男記念館の赤羽行雄館長は、田淵さんの魅力などを子どもたちに伝えようと、作品展の期間中、町内の小学校を積極的に訪れました。

6月24日には、町文化センターで、小学5・6年生、中学1年生を対象に話をしました。赤羽館長は「田淵さんの作品には、自然を愛し、大切にしたいというメッセージが込められている。皆さんも自然を愛する気持ちを持ち続け、恵まれた環境をいつまでも残してほしい」と話し、子どもたちは熱心にノートに感じたことを書き「もっと身近な環境について考えていきたい」と話していました。

う。偉大な田淵さんを教育の素材として考えてみる必要があるのではないかと。また、日野町の小学生も環境問題を取り上げ、安曇野の小学生と学習成果を持ち寄って交流すればおもしろいと思う。

水越 武（みずこし たけし） 田淵行男に師事。以後、 フリーの写真家として活動



Mizukoshi

水越 田淵先生の山岳写真は、山の姿形より山そのものの存在、スケールにポイントを置いていた。先生からは、写真のテクニックを教わるというよりも、自然に対するふれあい方、見方を一番学んだ。また、作品に対する執念や常に新しい分野に挑戦する姿勢にはおどろいた。その姿は今でも自分の励みになり勇気を与えてくれる。先生は環境問題について早くから警告していた。田淵先生の教え、我々に残してくれた大きな遺産、恩恵をみんなに広めていくことが先生への恩返しであると思ふ。

将来を担う子どもたちへの指針

田淵行男記念館を始め多くの方々にご理解とご協力をいただき、盛大に作品展を開催できましたこと厚くお礼申し上げます。

田淵さんのすばらしい作品の数々は、人々に感動を与え、子どもたちには環境教育の指針をもらいました。

作品展を機に深まっ



福田和也さん（黒髪）
田淵行男作品展実行委員長